

「ワインとチーズを楽しむ新年会」を2月21日に開催しました

12月のクリスマス会同様、3年振りの新年会となりました。今回は趣向を凝らして、ワインの知識向上や、フランスのワインのレクチャーを受けた後本場の味を楽しむ流れも良いのではと、会場スタッフ阿部寛大さんに講師をお願いすることで開催の案内をしたところ、Tea&Bar MAGIE NOIR(マジー・ノール)のイメージがワインとチーズに繋がる効果があったせいでしょうか、会場定員ギリギリ 33名の参加者となりオーナー五十嵐章浩氏以下、張り切ってワインチーズの選択手配に気配りいただき、歓迎の店主あいさつも高ぶって良い雰囲気ですスタートしました。冒頭、太田英晴理事長は「フランスが文化面で世界から愛されているように日本も文化の力で愛され続ける国になれば良いと思う。本日はフランスを楽しみましょう」と挨拶されました。阿部講師から「本日のワイン」「本日のチーズ」のレシピのポイント説明があり、中川俊哉副理事長の乾杯の発声で開宴となりました。ブルゴーニュ、ボルドー産ワイン、とチーズ4種の相性の説明を受けながらフランスの洞窟で採取された青カビ入りの



燭光灯るなか挨拶する太田理事長

ロックフォールチーズ等味わいながら、ワインのピッチも上がり精通出席会員、でない会員共に楽しみました。欠席小島元子先生からのボルドー品評会受賞の赤白ワインの差入れ、理事長から大吟醸「宝暦大七」の差入れも瞬時にありがたく頂きました。会費不足心配の店長気配で幹事が「シャポー投入募金」を有志から募りかろうじて赤字に至りませんでした。名残り惜しい中締め一本は、嫌われ覚悟の締めを芳見弘一副理事長にお願いして和やかに散会しました。会話教室、料理教室、直前入会会員、理事から満遍なくご参加いただきました。

フランス語会話教室 新年度授業日程及び時間割

ノエミ・レキ講師

福島県林業会館 1F 会議室

前期：15 cours				後期：15 cours				講座	時間	受講料
Avril	4月	1	22 29	Oct.	10月	14	21	初級1	10:00~11:00	78,000円
Mai	5月	13	27	Nov.	11月	18		上級	11:00~12:00	90,000円
Juin	6月	17		Déc.	12月	2	9 16	初級2	12:00~13:20	78,000円
Juillet	7月	1	8 22	Janvier	1月	13	20 27	入門	14:00~15:00	78,000円
Août	8月	19	26	Février	2月	10	17	中級	15:00~16:20	78,000円
Sept.	9月	2	16 23 30	Mars	3月	2	9 16 30	準上級	16:20~17:40	82,000円

年30回 各月授業開催日は土曜日となっております。

※4回分納可 (中、高生68,000円)

フランス料理を楽しむ会 月曜コース・水曜コース前期各4回日程

後期も4回の予定です

会場：福島 MAX アオウゼ 4階「調理実習室」

定員：各コース12名以内となりました。

時間：10:00~13:00

受講料：前期10,000円(4回分)、後期10,000円(4回分)

コース	開催月日		講師
月曜コース	第1回: 5月 8日	第2回: 6月 12日	第1回、2回、4回: 渡邊昭徳 (アルソーニ オーナーシェフ) 第3回: 相良栄二 (大玉ベース パティシエ)
	第3回: 7月 10日	第4回: 9月 11日	
水曜コース	第1回: 5月 10日	第2回: 6月 14日	第1回、2回、3回、4回 菅野 喜代治 (県立美術館 カナール前オーナーシェフ)
	第3回: 7月 12日	第4回: 9月 13日	

私のフランス語日記 *Mon journal en français*

À l'autre jour, une conférence s'est tenue à l'université à Sendaï que je fréquente à présent. Le conférencier est Dr Frédéric Chauvaud, le professeur spécialisé dans l'histoire moderne à l'Université de Poitiers en France. On a dit qu'il donnerait une présentation sur le thème de la lecture des bandes dessinées sur le point de « les corps brutalisés », de la contribution aux sciences humaines par l'étude de la bandes dessinée, etc. À vrais dire, je n'ai pas encore lu de BDs. En plus, ce thème semblait difficile à comprendre, j'ai donc, hésité à y participer. Mais comme je m'intéresse à la BD, j'y ai participé en prenant un congé payé. D'après le professeur, la BD avait été traitée autrefois académiquement comme existence marginale. Mais il a dit que l'on fait maintenant des recherches sur cela à beaucoup d'universités en France, et en particulier, l'Université de Poitiers est le centre de ces études.

Cette conférence s'est composée de trois parties; ① le crime et la violence coloniale, ② les corps déformés et les corps handicapés, ③ les violences sexistes et sexuelles faites aux femmes. À l'égard de chaque partie, plusieurs BDs ont été présentées. En citant quelques exemples intéressants pour moi, celui de ① est « Katanga » dans lequel on décrit le comportement de mercenaires belges à l'époque des conflits pour l'indépendance du Congo dans les années 1960. Le personnage principal du mouvement de l'indépendance, Président Patrice Lumumba a été assassiné et vitriolé, par conséquent, il n'est resté qu'une dent qui a été enfin restituée à Kinshasa par Bruxelles en 2021. Quant à ②, c'est « Les Naufragés du temps ». Dans cette BD, les hommes sont atteints par l'épidémie mystérieuse à la terre future, des visages de peuple se déforment laidement, la morale tombe ainsi en désuétude. Quant à ③, c'est « À la folie ». Ce qui est représenté, c'est la vie quotidienne d'un couple que la violence de l'homme à la femme devient un de moyens de communication.

Quand on compare la BD avec le manga japonais, ce qui évoque d'abord en moi, en ce qui concerne ①, c'est « Golgo 13 ». Mais je pense que « Katanga » fait sentir aux lecteurs plus fortement que « Golgo 13 », que l'on soi-même est une partie de ce qui utilise la violence, car cette BD a été décrite en France, le même pays francophone que Belgique, le suzairain colonial. À l'égard de ②, par contre, « Kirihito Sanka », un mangas japonais par Tezuka Osamu qui décrit la maladie par laquelle on



(COMコミックス増刊より)

先日、現在、私が通っている仙台の大学で、ある講演会が開催されました。講師はフレデリック・ショヴォーというフランスのポワチエ大学の近現代史が専門の教授です。フランス語圏のコミックスを題材として、「虐げられた身体」の視点からコミックスを読むことやコミックス研究の人文学への貢献などをテーマとして講演することでした。実は私は、フランスのバンド・デシネ (BD) を読んだことがなく、テーマも難解そうだったので迷いましたが、BD に興味もあったので、職場の有給休暇を取って参加してきました。講師によると、かつてはフランスでもコミックスは学問的に周縁的な存在として扱われていたようですが、今では多くのフランスの大学でその研究がなされており、特にポワチエ大学はコミックス研究の中心的な大学であるとのこと。

講演は、①犯罪、植民地での暴力、②変形した身体と障がいをもった身体、③女性に対する性差別的・性的な暴力という3つのパートで構成されていました。それぞれに関して多くの作品が紹介されましたが、私にとって



(出版社:Dargaud)

印象深かったものを挙げると、①については、1960年代のコンゴ独立紛争の頃のベルギー傭兵の行動を描いた『カタンガ』。独立運動の立役者であったパリス・ルムンバ大統領は暗殺され、硫酸をかけられてわずかに歯が一本残っただけでした。2021年にようやくその歯がベルギーからキンシャサに返還されたそうです。

②については、『時の漂流者』。

未来の地球において謎の感染症が人類を襲い、人間の顔も醜く崩れ、それに応じて道徳観も廃れて行ってしまうという話です。

③については、『熱烈に』。一組のカップルにおいて男性から女性に対する暴力がコミュニケーション手段の一つになっていってしまうという日常生活が描かれているとのこと。



(出版社:Hachette)

日本のマンガを BD と比較して、①に関して最初に思い浮かぶのは『ゴルゴ13』。でも、『カタンガ』の方が植民地宗主国ベルギーと同じフランス語圏であるフランスで描かれたことから、より強く自らが暴力の行使者だという意識を持たされるように思えます。

devient comme un animal à cause de la déformation d'os, c'est plus social et présente l'humanisme plus puissamment que cette BD sur le point que ce manga représente un désir d'honneur dans les milieux médicaux, la hiérarchie de médecins, la société rurale fermée et la résistance à ceux.

Bien que l'on appelle une œuvre le même nom « comics », il y a une différence grande selon les pays. La comparaison de ceux est très intéressante. Cependant, il me semble que le manga qui a une longue tradition provenant de « Chôjugiga », « Emakimono », c'est plus profond que des œuvres de l'autres pays. Ça ne serait peut-être que mon favoritisme...

un élève du cours de conversation en français :

Chizuo Hayashi

②に関しては、逆に、骨の変形により動物のような姿になる病気を扱っている、日本のマンガ、手塚治虫の『きりひと讃歌』の方が、医学界における名誉欲や医師のヒエラルキー、地方社会の閉鎖性とそれに対する抵抗を描いている点で、より社会性が高く、強くヒューマニズムが提示されているように思えます。

同じく「コミックス」といっても、国によってかなり違いがあり、比較してみると面白いです。それでも私には、「鳥獣戯画」「絵巻物」から続く長い伝統を持つ日本のマンガの方が他国の作品より奥深いように思えます。多分私の最見目でしかないでしょうけど...

(フランス語会話教室受講生 林 千鶴雄)

次回は、長谷川 孝さんお願いします！

室内楽の愉しみ

私が在学した桐朋学園大学の大学院は、富山県富山市にあります。2年間全員寮に住み、窓の外に立山連峰が広がる自然豊かな環境の中で音楽を学びました。室内楽に重きを置いたカリキュラムで、ソロやコンチェルトの他に二重奏や三重奏、四重奏等をたくさん経験することができた事は、私の音楽生活にとって大きな財産です。

室内楽は、それぞれの楽器が対等な立場で一緒に一つの曲を作り上げていきます。曲の開始や演奏中にタイミングを合わせるためにブレスや視線で合図を出し、耳の役割が重要な位置をしめます。室内楽では、相手の音のスピードや音色から変化を察知し、相手の音に自分の音をバランスよく重ねて聴きあうことで音楽が形成されます。そのため、相手の個性によって同じ曲でも自分の演奏が変わります。また、同じ人との演奏であっても、事前の練習でタイミングや内容を決めて予定するより、方向性を確認して解釈の可能性を話し合いながら、あまり決めすぎずに合わせる方が新鮮な気持ちを失わず良い演奏になる事もあるため、やはり毎回少しずつ変化していきます。

私たちが普段人と話す時に、相手の言葉から意図を察し、それに合った返答をしているように、室内楽では同じことを言葉ではなく音で交わします。それぞれが意思を持って演奏しながら、相手の音楽を察知する耳のアンテナを常に伸ばしているのです。そして、意思疎通が感じられるぴったりと合わさった音楽の流れが生まれた時、ソロでは味わえない感動が生まれます。室内楽の愉しさは、他の楽器と音楽的な会話を通して一緒に一つの

第15回～響きを紡いで～“音のまなざし”コンサート

6月24日(土) 16:00 開演

ふくしん夢の音楽堂小ホール

全席自由 一般 3,000円 高校生以下 1,000円

猶井悠樹

宮坂拓志

富山律子



音楽を作り上げることにあり、聴いてくださる方にその臨場感を一緒に体感していただくことにあると思います。

昨年11月に3年ぶりに開催した“音のまなざし”コンサートでは、メンデルスゾーンの“ピアノ三重奏第1番”を中心としたプログラムで好評をいただきました。今年、メンデルスゾーンの“ピアノ三重奏第2番”をメインに、クライスラーやショパンを組み込んだプログラムにしました。桐朋学園大学卒業の、猶井悠樹さん(NHK交響楽団第1ヴァイオリン奏者)、宮坂拓志さん(NHK交響楽団チェロ奏者)と共に、6月24日にコンサートを行います。共演者に恵まれていることに、心から感謝しております。ぜひご来場いただき、福島の地で室内楽を愉しんでいただけましたら幸いです。

富山律子(会員)

art 福島県立美術館 令和5年度企画展のみどころ

世界中が新型コロナウイルスに翻弄された日々が過ぎ、令和5年度は、日本においても、着実に、かつての豊かな日常を取り戻していく1年になることと存じます。県立美術館においては、今年度も多彩な企画展を開催してまいりますので、是非、多くの皆さまに御来館いただければ幸いです。

まず、3月21日からは、「^み美をつくし～大阪市立美術館コレクション」を開催しております。商都・大阪は、古来より、水の都としても知られますが、市の市章ともなっている船の航路標識である「^{みおつくし}湊標」になぞらえて、「^み美をつくし」という、たおやかで、印象的な展覧会名をつけました。展覧会名のとおり、葛飾北斎の代表作「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」(4/18～5/21 展示)や貴重な肉筆画である「潮干狩図」(3/21～4/2 展示)、上村松園の晩年の傑作「晩秋」などの日本美術の名品、大阪市立美術館が世界に誇る東洋美術コレクションなど、重要文化財も多数含む美しい作品群が一堂に会する貴重な機会となっております。

続いて、7月1日からは、久しぶりに、フランスの近代絵画を紹介する「ブルターニュの光と風ーモネ、ゴーギャン、ボナール～遙かなる理想郷～」を開催いたします。フランス北西部に位置するブルターニュ地方は、風光明媚な自然と独自の文化を持つことで知られております。険しい断崖が続く海岸線と豊かな海、敬虔な信仰心を抱きつつ、慎ましく暮らす人々の生活は、19世紀以降、多くの画家を魅了し、流派を超えた数々の名作が生まれました。今回の展覧会では、ブルターニュのカンペール美術館の所蔵品を中心に、約70点の油彩画、版画、素描などを御紹介いたしますが、印象派、ポスト印象派、ポン＝タヴァン派、ナビ派など近代絵画表現の展開をお楽しみいただけることと存じます。

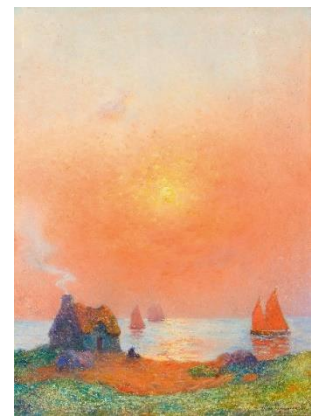
年度の後半は、目利きで知られる京都の老舗画廊、星野画廊の秘蔵絵画コレクションや福島県立医科大学の教授も務められた金子元久さんが長年に渡って収集された膨大な版画コレクションの名品を御紹介してまいります。また、年明けには、今回で3回目の開催となる、福島ゆかりの若手作家の作品を紹介する「福島アートアニヴァーサリー2024」を開催いたします。毎回好評をいただいておりますが、是非、皆さまには、御観覧いただくことで、福島から飛び立つ若い才能の挑戦を応援していただければ幸いです。

なお、私事で恐縮ですが、この春の人事異動により、県立美術館を去ることになりました。福島日仏協会の皆さまには、様々なご厚誼をいただきましたことに、この場をお借りしまして、心より御礼申し上げます。県立美術館では、これからも、魅力ある企画展の開催を始め、多くの県民の皆さまに喜んでいただける活動を続けてまいりますので、引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

前福島県立美術館長 長根由里子



葛飾北斎 《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》
天保元年(1830)頃、大阪市立美術館
(4/18～5/21 展示)



ピュイゴドー 《藁ぶき屋根の家のある風景》
1921年、カンペール美術館
(7月企画展)

■令和5年度企画展スケジュール

2023年 3月21日～ 5月21日 ^み美をつくし ～大阪市立美術館コレクション

2023年 7月1日～ 8月27日 ブルターニュの光と風
ーモネ、ゴーギャン、ボナール～遙かなる理想郷～

2023年 9月23日～ 11月12日 「少女たち」星野画廊名品展

2023年 11月21日～ 12月27日 現代版画の小宇宙 金子コレクションから

2024年 2月3日～ 3月3日 福島アートアニヴァーサリー2024

2024年 3月23日～ 5月12日 美人画の雪月花 ～^{ばいこうあん}培広庵コレクション展

